



松園地区

第1期活動計画で取り組む事業を選定

12月22日（月）、松園地区自治協議会（熊谷喜美男会長）は、松園地区活動センターで、第6回自然環境部会を開催しました。

松園地区では、「花とみどりが豊かで、自然と調和しているまち」を目指しており、「松園ガーデン・花と自然と調和したまち」を活動テーマに、地区内にある小鹿牧場の有効活用や団地の法面の保全・美化活動、オープンガーデンのお庭めぐりなどの取組を進めることにしています。

自然環境部会では、これまで5回にわたって話し合いや地区内のまちあるきを行っており、どんなことに取り組みたい



【市の関係課職員を交え、活用・改善について考えました】

か、どのような課題があるかなどの意見を出してきました。今回は、その中から「実際にやれること」「緊急性の高いこと」を基準として、27年度から29年度までの第1期活動計画で取り組む事業を選定するために開催されたものです。

前回までに話し合った内容等の確認をした後に、地域の活用・改善について盛岡市の事業関係課職員を交えて話し合いました。

今後は、松園地区の全世帯に月1回無料で配布されている松園新聞で、今回の結果について紹介するとともに、住民から広く意見を募集し、第1期活動計画を決める予定です。



【まとめた意見を最後に発表しました】



コミュニティ課題研究会先進地視察 ～ 一関市 ～

盛岡広域振興局は広域8市町とともに、地域コミュニティの支援を担当する職員の資質向上や管内市町の地域コミュニティ支援を促進するため、地域コミュニティ検討会・課題研究会を行っています。12月18日(木)に先進地視察で伺った一関市の事例について紹介します。

室根12区自治会

植樹祭などの特色ある地域づくりを行っている室根12区自治会。三浦幹夫会長から現在の活動などについての紹介がありました。

取り組みの1つである植樹祭は、カキ養殖が盛んな宮城県気仙沼市の漁業者などで組織された「牡蠣の森を慕う会」の活動に賛同したもので、「森を健全な状態に保つことが、海の生き物を育てる」がキャッチフレーズの環境保全のための取り組みです。

三浦会長は「ほとんど地域からのPRはしていないが、JICAの口添えでフィリピン教育庁の一行が参加したり、ルイヴィトンの会長が参加したりと田舎の山奥には似つかわしくない人達が参加するようなイベントになった。」と話し、これからの活動にも更に期待がもてる様子でした。

藤沢町住民自治協議会

藤沢町住民自治協議会の千田博会長と一関市藤沢支所の佐藤哲郎地域振興課長から同協議会の活動内容について説明がありました。

藤沢町では快適な生活環境の実現を図るため、藤沢町一円を対象としたビューティフル藤沢整備事業を実施し、町内道路等にコミュニティ花壇の設置をしています。

さらにこの事業の一環として、年2回の町内道路・河川一斉清掃と年3回の生活物資リサイクル集団回収事業を行っています。

自主防災組織は町内44の自治会のうち40で設置され、各自治会の個性ある地域事業を支援しています。また、行政と自治会の連絡会議を開催し、協働のまちづくりを展開しており、住民自治、住民が主役という考え方が根付いている地域でした。

特産品開発事業の試作品をお披露目

～ つなぎ地区 ～

12月24日(水)、つなぎ地区振興福祉推進協議会(高橋金兵衛会長)は、オリジナルの「南部せんべい」を作成し、その試作品をお披露目しました。

これは「つなぎブランドの開発」として取り組んできたもので、パッケージのデザインの検討などには、地域の小中学生もワークショップに参加し、大人と一緒に考えてきたもの。試作品は、地域行事などで配布するなどしてニーズを調査したうえで、来年度以降の販売を目指しています。

つなぎ地区まちづくり委員会のみなさんは、「まちづくり活動の充実に売り上げの一部が充てられるようにしていきたい。」と意気込んでいました。



【つなぎ地区のオリジナル南部せんべい】